

固定性義歯補綴学

責任者名：小峰 太

学期：後期

対象学年：4年

授業形式等：講義

◆担当教員

小峰 太(歯科補綴学Ⅲ 准教授)

松村 英雄(歯科補綴学Ⅲ 教授)

小泉 寛恭(歯科理工学 准教授)

本田 順一(歯科補綴学Ⅲ 助教)

◆一般目標 (GIO)

歯科医師になるために必要なブリッジを含む固定性義歯補綴学の概要を理解し、歯科補綴学用語の基礎知識を習得する。また、臨床実習を円滑に実施するために、支台装置の種類、クラウンとブリッジの相違、固定性補綴装置による治療の流れなどを理解する。

◆到達目標 (SBOs)

ブリッジを含む固定性義歯補綴学の概要を述べることができる。

歯科補綴学用語の基礎知識を解釈できる。

支台装置の種類、クラウンとブリッジの相違を説明できる。

固定性補綴装置による治療の流れを具体的に述べることができる。

口腔インプラント支台装置による補綴処置の流れを説明できる。

◆評価方法

定期試験結果 (50%)、平常試験 (10月16日および11月20日の土曜日に実施) 成績 (40%)、レポートおよび提出物 (10%) とし、総合的に評価する。なお、平常試験に関する内容を講義時間内に学生にフィードバックする。公欠以外の欠席は減点する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
小峰 太	金曜日 17:15~18:15 歯科補綴学第Ⅲ講座研究室	komine.futoshi@nihon-u.ac.jp	
松村 英雄	金曜日 17:15~18:15 歯科補綴学第Ⅲ講座研究室	matsumura.hideo@nihon-u.ac.jp	
小泉 寛恭	金曜日 17:15~18:15 歯科理工学講座研究室	koizumi.hiroyasu@nihon-u.ac.jp	
本田 順一	金曜日 17:15~18:15 歯科補綴学第Ⅲ講座研究室	honda.junichi@nihon-u.ac.jp	

--	--	--	--

◆授業の方法

授業に際して、授業内容をまとめた資料を配付する。学期内に2回の平常試験を行う。

【実務経験】小峰 太，松村英雄，小泉寛恭，本田順一：日本大学歯学部附属歯科病院クラウン・ブリッジ科で臨床診療を実施している立場から，本教科で学修する知識や臨床術式が実際の臨床でどのように活かされるかについて説明を加える。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	冠橋義歯補綴学テキスト (第3版)	石神 元，松村英 雄，小峰 太，小泉 寛恭 ほか	永末書店	2019
プリント配付				

◆DP・CP

DP3

コンピテンス：倫理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に，論理的な思考や批判的な思考ができる。

DP4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し，その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP5：

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見い出すために，基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

CP3：幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に，論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4：歯科医学の基礎知識を体系的に修得し，臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

CP5：研究で明らかとなる新たな知見と研究マインドをもとに，歯科医学の課題に挑戦する学生を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

教科書による予習を行い，当日の学修到達目標を理解すること。

授業中は，配付プリント，ノート等に必要事項を記載し，自身の学修に必要なノートを作成すること。

作成したノートをもとに復習を行うこと。

各々授業時間相当を充てて予習と復習を行うこと。

◆準備学習時間

授業時間（50分）相当を予習（50分）および復習（50分）に充てること。

◆全学年を通しての関連教科

歯冠補綴学（3年後期）

歯冠補綴学実習（3年後期）

架橋義歯補綴学（4年前期）

架橋義歯補綴学実習（4年前期）

顎機能分析演習（4年後期）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		8.27	1	【遠隔】 口腔内情報の記録，固定性暫間補綴装置 (教) pp.139-142, pp.162-166	・色調選択，伝達，歯の位置，形態の記録，口腔内写真撮影について説明できる。 ・固定性補綴のための暫間補綴について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
2		9.3	1	【遠隔】 ブリッジの設計とワックスパターン形成 (教) pp.143-145	・ブリッジワックスパターン形成の方法論，作業工程について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
3		9.10	1	【遠隔】 ブリッジの鑄造，連結法 (教) pp.146-156	・ブリッジの鑄造工程，連結の必要性，方法，作業，器具操作法について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
4		9.11	1	【遠隔】 試適，咬合調整，仮着 (教) pp.158-162 *土曜日(9/11)	・ブリッジの試適，咬合調整，仮着について，クラウンとブリッジの違いを説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
5		9.17	1	【遠隔】 固定性補綴の術後管理 (教) pp.228-232 歯冠継続歯(ポストクラウン)	・固定性補綴装置装着後の管理の必要性，意義，予後，経過観察の方法論などについて説明できる。 ・ポストクラウンの特徴と適応症を説明できる。 ・磁性アタッチメントの特徴と臨床	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療

				(教) pp.176-177 磁性アタッチメントを用いた支台装置 (教) pp.180-182	応用について説明できる。		
6		9.24	1	【遠隔】 歯周病と固定性補綴処置 (教) pp.212-217	・歯周病患者の支台歯形態およびプロビジョナルレストレーションの特徴について説明できる。 ・歯周組織に調和した固定性補綴装置の特徴を説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
7		10.1	1	【遠隔】 CAD/CAMによる 歯冠色補綴処置 (教) pp.202-210	・CAD/CAM製コンジットレジ ンとセラミックスによる補綴装置 について説明できる。 ・光学印象の術式を説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
8		10.16	2	【対面】 平常試験1 (C303, C502) *土曜日(10/16)	・平常試験を行い、第1～7回の講 義内容の理解度を確認する。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
9		10.22	1	【遠隔】 オールセラミック 修復 (教) pp.184-190	・オールセラミック修復のシステム と技法について説明できる。 ・平常試験1のフィードバック	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
10		10.29	1	【遠隔】 セラミック製補綴 装置 (教) pp.184-190	・セラミック製補綴装置のシステム と技法について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
11		11.5	1	【遠隔】 口腔インプラント 支台装置による補 綴処置(1) (教) pp.248-261	・口腔インプラントの意義、構造、 選択基準、治療の流れを説明でき る。	小峰 太	E-3-4)-(3) デ ンタルインプ ラント

12		11.12	1	<p>【遠隔】 口腔インプラント 支台装置による補 綴処置(2) (教) pp.248-261</p>	<p>・口腔インプラントによる補綴処置 について説明できる。</p>	小峰 太	E-3-4)-(3) デ ンタルインプ ラント
13		11.19	1	<p>【遠隔】 顎機能障害患者と クラウ ンブリッジ (教) pp.234-239</p>	<p>・顎関節に障害を持つ患者に対する クラウンとブリッジの処置について 説明できる。</p>	本田 順一	E-3-4)-(1) ク ラウンブリッ ジによる治療
14		11.20	2	<p>【対面】 平常試験2 (C303 講堂, C502 講堂) *土曜日 (11/20)</p>	<p>・平常試験を行い, 第1~13回の講 義内容の理解度を確認する。</p>	小峰 太	E-3-4)-(1) ク ラウンブリッ ジによる治療 E-3-4)-(3) デ ンタルインプ ラント
15		12.3	1	<p>【遠隔】 接着ブリッジ, コ ンポジットレジ ンブリッジ (教) pp.168- 174, 199-200</p>	<p>・接着ブリッジの理論と実際につい て説明できる。 ・装着材料の種類, 接着の術式につ いて説明できる。 ・コンポジットレジ ンブリッジの構 造と適応について説明できる。 ・平常試験2のフィードバック</p>	小泉 寛恭 松村 英雄	E-3-4)-(1) ク ラウンブリッ ジによる治療

